



嘉永六年八月十日
林或部少輔及
參政查藤伯子等
殿下
書
長
尾
衷
羊
葉

大槻文庫

洋学文庫
文庫8
A 107



愚妄

未利解人渡来有書綴在衣裏入内海
此内書有年月日及姓名等事

一此度未利解人持系一書箱浦智表馬請記
表内全一付控是之由方之
大船回般有糧物内海に乗入りて
如何なる内海を由りて之中
二内海を航し出帆一仕業之
乘込内海沖に碇を下し全我
107

予一可憐之至、所產之物、即刻以用船運出
浦留存、在自必出法、以發通、初回和、波船を
進掛、使弟、而余、物、浦留、以、内、不、乘、入、我、也、
定法、は、所、各、所、案、内、に、予、は、い、り、申、連、乘、戻、可、
又、國、法、に、依、り、所、案、入、下、申、す、い、り、所、案、外、
使、弟、も、承、り、た、り、と、是、を、定、法、に、可、犯、し、并、一、次
有、り、程、に、人、物、何、れ、も、打、法、出、本、申、請、を、國、書
に、申、す、に、名、戻、り、日、日、に、指、留、す、所、案、重、く、出、頭、せ、
い、何、れ、も、剛、愎、之、者、は、も、辱、使、命、に、罪、過、を、思

今、必、承、服、了、仕、生、命、に、船、艦、を、乘、戻、し、而、已、す、
以、一、札、に、謝、状、を、為、出、す、外、に、存、在、心、を、既、從、し、
予、今、文、十、七、と、い、ふ、無、事、案、上、に、來、寅、年、二、三、月、以、
以、返、物、承、り、に、再、渡、被、り、命、に、船、艦、を、控、申、何、れ、も、更、
上、に、内、海、に、出、渡、す、由、に、あ、ら、ま、い、り、再、以、内、海、に、不、乘、入、
子、股、肝、要、に、申、す、存、在、心、固、く、先、生、之、意、兼、て、申、
上、い、當、年、に、内、海、岸、に、備、一、方、を、初、以、返、答、極、其、外、
諸、事、に、決、定、お、成、り、し、本、意、に、申、浦、留、存、す、に、并、
守、衛、四、家、に、申、御、渡、出、度、に、渡、申、す、事、に、亦、以、知、在、り、

至其初亦至其是者中官受冲令一燕之鼠
是也其速如圖之根煙之揚浦智亦在船中即
刻以用船之至也但者兼但神速之彼船來
付使節下而會其亦中官我亦之定法之嚴密
或尤其後之口上之也其亦中官受冲令一燕之鼠
也其速如圖之根煙之揚浦智亦在船中即
刻以用船之至也但者兼但神速之彼船來
付使節下而會其亦中官我亦之定法之嚴密
或尤其後之口上之也其亦中官受冲令一燕之鼠

佐列為後置相其人其亦彼亦也書船之置其
内外之分界者有之必兼入中官受冲令一燕之鼠
也其速如圖之根煙之揚浦智亦在船中即
刻以用船之至也但者兼但神速之彼船來
付使節下而會其亦中官我亦之定法之嚴密
或尤其後之口上之也其亦中官受冲令一燕之鼠
也其速如圖之根煙之揚浦智亦在船中即
刻以用船之至也但者兼但神速之彼船來
付使節下而會其亦中官我亦之定法之嚴密
或尤其後之口上之也其亦中官受冲令一燕之鼠

此乃其存也

一次亦以返奉山掛合振之云々上は彼玉書翰の
情状は如何の時と控道ふ可き事と云々未だ供儀
船の返物承りて再以渡来り上ハ事體も不輕儀
此方より如何と嚴重に申掛へ壁立千仞之勢を
為す之憂多ふ可し依に彼使節ハルリを江戸
上ハ呼寄りて成問老の役定以又ハ

御城事問老方ハ應對し上ハ返物も渡りて成
下ハ事體も於てお當り申事ハ存存上ハ事
終りて事過一り上ハ報り上ハ事又も一等

下ハ事張者事ハ振合り以浦賀之里濱に於
ハお禮に候御座り事成問老の職外新
起りて人々御座り諸有司一回同下ハ事張り
彼使節ハルリを船の事問老の役定以有
司列座り事未使節官儀ハ才識並備り由
事然此方ハ事重々大臣事玉ハ事決り應掛
儀定可儀致

上意に趣申を先我國體人情を記起し議論公平
義理明白に申す可儀御期圖に一切御用是に

相通信通商之沙法不及六別其返稿若此
筋之其多其方之其作論其時使帝一封之
報書其年之其波命之其成其十其其其其其
之彼其外國事務宰相之其其其其其其其其
之其其其其其其其其其其其其其其其其其
之其其其其其其其其其其其其其其其其其
折之其其其其其其其其其其其其其其其其
之其其其其其其其其其其其其其其其其其
之其其其其其其其其其其其其其其其其其
之其其其其其其其其其其其其其其其其其

對社是也掛之結斗以此亦之言
津國安安危之所係之其其其其其其其其其
為其其其其其其其其其其其其其其其其其

一此及彼其其其其其其其其其其其其其其
一其有未能之由別其其其其其其其其其其
其其存短智杖量之小人其愚其其其其其其
彼其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其

男子の正名に上る書物に易の正情の成る
事存正法を犯し摺り内海に入れば我徒
に振舞ひ給ふ皆小量の心か擧げしに沈沈大度
の成る更に其の在彼先年曾西亞使節に於て
人物の格取らば後二の在は是ぞ正我事大
幸もして其の正名を能く其の在る何ん臆は
念を以て終に成從容寛大の正情解らば必
思ふ通る事流るが上り事存正

一 閣老の彼も外國事務宰相にせよ其返物ハ

此度正評議中第一義我の正也

公儀をも多御親在諸公閣老急政仕有司
の外は大小諸君に至り御評定一決し
此徳を成り申す以て拙者如き書生輩は喙を
容るふこと其の在る正名を以て外に事情を
おぼしめし是度彼書翰中に意味合の篤く熟
覽するに及ぶるは若し下りて思案十條等
以て其の正名を綴りしに御然るに其の在る
の事とて其の正名を一助と成りし一助と成りし

徳を入内之に

愚案十條

側不同貴玉之和歐羅巴人種を移せし
頃人民稀少して風俗も貧陋ありしが進
土地廣大に民口蕃殖し今三十餘年衆
強盛し玉必成殊ふ天運の時以て七年に百
五拾萬戸に多し其富も亦盛なり其地
中奇物品多き推して他一誠ふ他は玉
匠之贏利を望み求む以て如何に我日本

に在る新不流美に堪ざる不あり

貴玉我日本に宜しく和好あり之を極て
其懇切之情を知れり抑若し其に
憾小在り國體風土に宜きを求むし殊ふ
此玉を報謝して船艦を設けしむ徒に有
来り玉を往て宜禮に宜きを求む者之也
貴玉其の語聖と云ふ氏に定律を定むるに
猶我祖宗に宜制を定むる如し若し玉法
を守りて定律を失はざる事獨立國に希

二何々也

去年魯西匪公使節を立我亦道信
通商を乞ふ時我固く禮法を重んずる
て其乞ひに應へ難きを指せしるば使節に
承諾して速く歸帆し尔後我亦我亦
有し去年僅く四年の年あり今も然る
貴亦乞ひを許し其信義を魯西亦
失ふ年人少く貴方正實友愛を乞ひ
願ふ所あり也

支那知事、我亦未だ通商して通
信にあらず且其通商を許せしは
其亦何れも今禮法一定の法を以て
これを指し難し
交易の事、其亦有るは我亦、
其亦之を重んずるは我亦、
貿易定額之外、永久別な輸送する物品
小令し、其亦交易を結し、
不足を補ふは其亦、其亦、

不可改者や

此等之船支那に航し又鯨獲之為日本近海
ニ至り或破船ニ逢ふ事何れも其難民を接郵
し財物を保護せしむる所其責を領せり我々
ニ吏民皆耶穌教ニ禁を守るる友の時
ニ痛く外邦之民を拒く事何れも得已し其難
辛克仁慈之是に何れも今も以後半島之民
何れも浦多に現立難船ニ逢ふ事若し知
る事必救以取て接郵す如し此れを長崎に

獲送す是に必物必し便宜を得る事何れ
貴も蒸氣船我々海通船之命も其所願也
至る時我々所産之石炭を以て其船を接濟せし
むる所是亦其責を領せり此亦我々西海之貧民最
多自炊之常用として他に外も供給す可有故
あり非也之難當此等之進出議も亦其何れ
薪水及び食料之如き一單に長崎に至る事
事を弁以し一必他に港口不入こと其如れ
我々從來長崎を以て外國應接之地と爲す

一ハ貴王ニシテ多ク知ル所ナリ今ハ南
境ニ於テ新ク一處ヲ設ケルニ事畢ニ我王
政治ヲ妨グル事ナク貴邦別ニ其民ヲ安
サシメテ規律ニ付ル事ナリ
合衆ニ製造スル物品收積セテ後ニ其惠セシ
メテ厚ク其謝スル所ニ納メテ其物交易
ニ事急ニ不為任トシ徳ヲ收納セシメ奉
ル事ナリ幸ク御事ニ付テ不恭ト為ル事ナ
キ事ナリ伏テ祈ル

貴王ニ君主ニ登天神ニ眷顧セテ其
く多ク疆土ヲ拓キ其民ヲ安シク
嘉永七年甲寅三月某日即朱利幹建王
七十九年四月某日

右ハ内魯西亞ノ一處ニ設ケル所ナリ
一ハ貴王ニシテ多ク知ル所ナリ今ハ南

一 朝議ニ交易ノ許シテ沙汰ノ口ニ
是ノ理ニ付テ其民ヲ安シク其
是ノ上ニ其民ヲ安シク其

一 寛政四十年より以魯西亜人ナリクニニ領事地
ニ東内領中ニ在ル所ニ此ハ外ニ亦報ニ地ニ阿ル所
ニ領事官何レモ長崎下五ノ一ニ長崎下五ノ一
位牌ヲ賜フニ彼亦既ニ領事官ナリシニ存
シ之ニ及救年ヲ経テ文化元年九月使節
ニテ國書ヲ奉リ長崎下五ノ一入津道信通高
ト請フニ時我王ニ嚴禁ヲ以テ及以以貴
獻物ニ一切以テ交納スル所使節ニ同二年三
月中冬冬ニ到帆波ト云ル所辱君命ト云

残念ニ存且ニ臨羅毛被下ニ面目モ無シ也
未列國都途中ニ自畫致ル由生後
又救年ヲ経テ文化八年ニ以同使節以丹
コウインニ領事海測量ニ為海東ニ亦彼王
賊ホモシトテ乱暴治ニテ亦彼等ヲ怨長
坊極波地徒ニ級人計策ヲ以ゴロウイン等七
八人ヲ台捕松前ト引連テ四年ノ間牢舎
為被置ル所波徒ノ縁故ニ漸事寧ク明白ニ成
ル所ト云テ返ニ亦成ル所ニ為度ニ所仕向方如何

中々無事に始むれば、長年彼を以て宜く不平
を存在可中史を甘心致何事の手出さず
仕大畏る可中然るも第一米利弊を
交易の許さずれば、彼を公表向使節を
立如何に難題中來りて、その測生帝に
如何に返答するに、誠以痛心中也

之れ程に、内果して長崎に海來る由
彼を敏速に御可なり、其の事は但し魯西
亞の支那に交り、其の事は仕置るに可なり

大國書に傳へたる或る事一
第一に、其の事は
私に傳へたる

一 近年強き、其の英吉利の支長五年
衆の塚に來交易、其の強く、其の免件長付
御前、其の置年、肥前平戸島交易、其の
利潤少く、元和中彼が辭して、其の事
三杉録年を、其の寛文十三年、其の海來
交易、其の事、其の許さず、其の海來停止
其の事、其の支長、其の事、其の彼を

紋居の角交易致す志多已時勅
れ、彼役人其詳議多由由三四年
阿多建風記書におよぶ是、他
易にその用を承りし、其
一阿多院の交長松田年交易致す時

紹平、聯綿、通商、紋第一風記書、用
勅、外海外、交易、至、何、
中、院、十、年、前、年、ル、第、二、世、阿、多、院、王、
然、使、節、船、を、立、出、忠、告、中、古、交、易、に、節、

返編、外、を、関、老、分、書、編、は、
書、の、情、況、に、お、お、止、ま、る、は、未、
に、長、を、由、承、り、し、る、に、由、り、
利、弊、書、編、海、勢、と、情、況、に、
必、収、く、存、中、古、交、易、三、
合、し、一、未、利、弊、に、交、易、
古、の、交、易、に、深、く、恐、怖、仕、
一、此、度、に、成、形、先、に、考、詰、し、
以、り、一、應、之、應、に、濟、中、古、交、易、

一、此、度、に、成、形、先、に、考、詰、し、
以、り、一、應、之、應、に、濟、中、古、交、易、

互に承知すや成果は戦争に至りては常
に此方義氣に十分満ち必一戦を遂げ
中止すも彼に神機利銳に飛道具に兵卒に
能調練銃兵由夫に敵討殺に十分勝利
を得一其も存固に近世清公郡縣に
大敗す如きふに五十年後何事と二百年來
太平游惰之士俄に軍陣に臨み其敵物を
銳業に全ししと三戦四戦に後一人の精を
存し其道に和議を一條に至り終り生息

彼分歳幣を以要りしは國勢人心の
如何變化は若しは強ト思ふ所及如何は
一抑時ふ機會もがらなくは機會に乗一戰終
事とする時如何なる大事に成就せしや中
に産むる生 六朝に當令の時勢を察すも我
神武の志を承て米利幹に以て自ら社好機會
たれば機會を不失り代不易國永承之と
を聞かざらんは何なるや其永く道三
百年來に富製を一度して新不實地實

用之兵備を教習し多し其目三つあり城郭
之製之船艦之作之銃砲之造之此三つ若し其
法多知く政府諸明公此亦於千古活服
之開き其法則を西洋に取對せ彼製之
改革し給ふ事也

我々軍艦之製之姑く置城郭之作銃砲
之造之皆其苦正しく南蠻に倣ひて作ら
ざる然る亦年久及んば慣れぬ所往々
邦製之心得らざる角あり其恥辱

此存し後其若し其目三つあり城郭
之製之船艦之作之銃砲之造之此三つ若し其
法多知く政府諸明公此亦於千古活服
之開き其法則を西洋に取對せ彼製之
改革し給ふ事也

活勤軍と成りて十数年を不待して
兵備堅固之強盛國と成りて質之鬼神と
可軽い結果して其生と死を信せしむる
西史中都兒格魯西亞之條を以て其明據
の體ありて其新給ふ

一方又當今之急務と爲る内和人心と一業
の在りて其心也

朝廷と其初或万二千諸侯分士庶民と其
和平就睦也如一家と其大艦巨砲

之外敵以防と其倭之先を以長出に西九
の善請以子傳之其大山諸侯一同其免之其
付以故仕を存存の志其有至其海來其射
就其固と其長其向既と其免之其由史と其
階級を以付交り速其免之其沙法其作出
天下一統の仁也

御大恩を存其武備を勵み兵具未
用其史と其原

其心也其存其堅固其心也其存其心

何分爲

神國の銘獲之非常之仁政を執行は此
節別と書要之由事之公存存存以上

嘉永六年癸丑八月十日

仙臺微臣大物平次隆白

明治三十七年一月十日東京濱所丸山内香溪ヲ訪フ
主人は冊ヲ出シテ曰頃者先人ノ古箴中ヨリ得タリ
蓋シ故郷溪先生ガ先人ニ示サレシモノカ是レ君ガ
家ニ存スルモノ永ク藏セシヨト云乃チ驚喜受ケ
テ装綴ス

不肖又彦記

大觀文庫